

2012年度受託研究概要報告

兵庫県シルバー人材センターPR動画作成、DVDパッケージ作成

研究メンバー

橋本英治 先端芸術学部映像表現学科教授  
武田峻彦 先端芸術学部映像表現学科実習助手

委託者

兵庫県神戸市シルバー人材センター協会

研究概要

シルバー人材センターは、「自主・自立、共働・共助」を基本理念に、高齢者が地域を単位に自主的に連帯して、共に働き、共に助け合っていくことを目指す団体です。兵庫県下にある40近くあるシルバー人材センターとして、16箇所のシルバー人材センターおよび関連施設の取材を行いました。同じ県下とはいえ片道3時間にもおよぶ移動で、取材の実時間よりも移動時間が長いという日々を学生たちと手分けして延々と繰り返しました。撮影内容を踏まえた上で、『兵庫県シルバー人材センター』の概要、および近年重要視されている『家事援助サービス』の2種類に映像を分け、それぞれDVDディスクに編集いたしました。高齢者向けということもあり、穏やかな編集と、ナレーション等の聞き取りやすさ、大きなテロップを加えまして、映像の内容理解促進を目指しました。

映像2種類のDVD化に伴い、パッケージも『兵庫県シルバー人材センター』の概要、および近年重要視されている『家事援助サービス』の2種類を制作いたしました。優しくカラフルなデザイン、刺繍を使った温かなデザインを目指しました。

研究成果

学生と取材を同行することにより様々な成果を上げることが出来ました。世代の違う人たちとの交流が学生たちには新鮮だったようです。自身の中から湧き出る創作物と、依頼相手がいる創作物とではつくり方にそれぞれの工夫が必要なのであると、通常の授業内の課題等では教え切れない部分を学生時代の内から感じ取ってもらえたのが今回の研究の何よりの成果です。DVDの納品完了後、映像パッケージ化したものをWeb上にUPし、シルバー会員の訴求を目指しました。今後タイミングと予算が合えば、今回撮影した映像素材等を使用し別のコンテンツを作成して頂きたいとの要望もあり、今後とも良い関係を築きつつ、更なる研究およびコンテンツ制作を目指します。

パッケージおよびディスク、DVDメニュー画面はビジュアル表現学科の非常勤講師、大江純平氏と共につくり上げました。映像制作からパッケージ制作のお仕事が派生し、結果的に学科間と違うメディアを越えたコンテンツの制作が出来ました。『シルバー』という単語はシニアな年代層を意識いたしますが、実際には『シルバー人材センター』が行っているのは、子供から大人まで、様々な世代の人たちとつながりの深い取り組みをしています。温かなデザインでそちらを表現出来ていると喜ばれました。今回のパッケージデザインを今後のシルバーのフライヤー等にも使用したいという希望も伺いました。

